第 104 回　2025 年 9 月 27 日 (土)

青山七恵（あおやま ななえ）

作家。1983 年埼玉県生まれ。
2005 年「窓の灯」で文藝賞を受賞しデビュー。07 年『ひとり日和』で芥川賞、09 年「かけら」で川端康成文学賞を受賞。他の著書に『あかりの湖畔』『風』『繭』『めぐり糸』『ハッチとマーロウ』『踊る星座』『私の家』『はぐれんぼう』など。近著に『記念日』がある。

竹中優子（たけなか ゆうこ）

歌人、詩人、作家。1982 年山口県生まれ。
2016 年に「輪をつくる」50 首で角川短歌賞、22 年に第一歌集『輪をつくる』で現代短歌新人賞を受賞。同年、現代詩手帖賞を受賞。23 年、第一詩集『冬が終わるとき』で中原中也賞最終候補。24 年、「ダンス」で新潮新人賞を受賞、芥川賞候補となる。近著に『ダンス』がある。

第 105 回　2025 年 10 月 25 日 (土)

澤田瞳子（さわだ とうこ）

作家。1977 年、京都府生まれ。
2010 年に長編小説『孤鷹の天』で小説家デビュー。同作で中山義秀文学賞を受賞。13 年『満つる月の如し　仏師・定朝』で新田次郎文学賞、16 年『若冲』で親鸞賞、20 年『駆け入りの寺』で舟橋聖一文学賞、21 年『星落ちて、なお』で直木賞をそれぞれ受賞。他の著書に『火定』『名残の花』『のち更に咲く』『赫夜』『孤城春たり』など。近著に『京都の歩き方：歴史小説家 50 の視点』『梧桐に眠る』がある。

© 富本真之　© 露木聡子

篠田節子（しのだ せつこ）

作家。1955 年、東京都八王子市生まれ。
90 年『絹の変容』で小説すばる新人賞を受賞しデビュー。97 年『女たちのジハード』で直木賞、『ゴサインタン』で山本周五郎賞、2009 年『仮想儀礼』で柴田錬三郎賞、11 年『スターバト・マーテル』で芸術選奨文部科学大臣賞、15 年『インドクリスタル』で中央公論文芸賞、19 年『鏡の背面』で吉川英治文学賞をそれぞれ受賞。20 年、紫綬褒章を受章。著作多数。近著に『青の純度』がある。

第 106 回　2025 年 11 月 29 日 (土)

松下育男（まつしたいくお）

詩人。1950 年、福岡県生まれ。
75 年、上手宰、三橋聡らと同人誌「グッドバイ」創刊。79 年、詩集『肴』にてＨ氏賞受賞。2005 年、阿部恭久、佐々木安美と同人誌「生き事」創刊。19 年『現代詩文庫　松下育男詩集』、21 年には 18 年ぶりの詩集『コーヒーに砂糖は入れない』を刊行。近著に『これから詩を読み、書くひとのための詩の教室』がある。

斎藤真理子（さいとう まりこ）

韓国文学翻訳者。1960 年新潟市生まれ。
著書に『本の栞にぶら下がる』、訳書にパク・ミンギュ『カステラ』(ヒョン・ジェフンとの共訳)、チョ・セヒ『こびとが打ち上げた小さなボール』、チョン・セラン『フィフティ・ピープル』、チョ・ナムジュ『82 年生まれ、キム・ジヨン』など多数。2015 年、『カステラ』で日本翻訳大賞、25 年、『別れを告げない』(ハン・ガン著) で読売文学賞（研究・翻訳部門）を受賞。近著に『増補新版　韓国文学の中心にあるもの』がある。